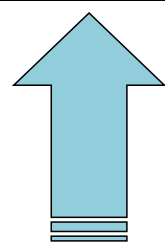
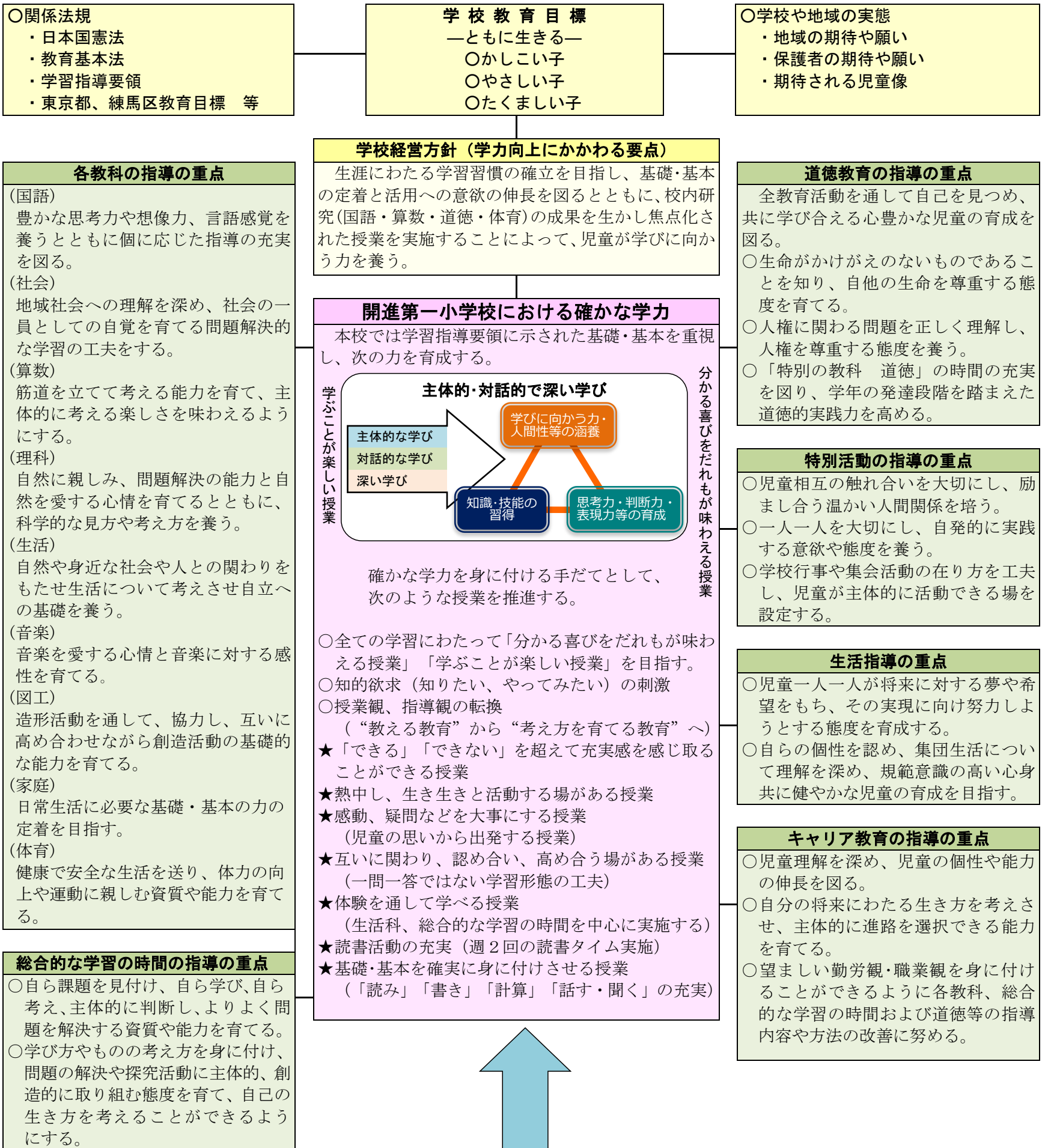


平成30年度 学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○「関心・意欲・態度」と「読み解く力」の2点に重点を置き、学力の向上を図る。 ○発展的な学習・補充的な学習の開発をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1、2年生の算数におけるTT指導、3～6年生の算数における習熟度別指導を行う。 ○全学年特色ある教育活動の継続・発展をする。 ○土曜授業の有効活用をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「児童が自信をもってコミュニケーションを図ろうとする外国語の授業づくり～楽しみながらやりとりできるような活動を通して～」を校内研究の主題とし、指導力の向上を図る。 ○授業実践を中心に個々の指導力を高める研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個のよさや伸びの評価(画一的でない評価の物差しを用意)を行う。 ○評価したら指導に生かす評価活動のサイクルを重視する。 ○学校評議員等、外部指導を生かした改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間8回の土曜学校公開を実施する。 ○学校公開の保護者の感想や関係者評価などを授業改善に活用する。 ○道徳授業地区公開講座を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回、6年児童による中学校訪問を実施する。 ○中学校教諭への授業公開と研究協議会を実施する。 ○9年間を見通した社会と技術家庭のカリキュラムを作成し実践する。また、昨年度までに作成した算数、国語、体育と外国語活動については、カリキュラムの検証を行う。